

少数の賢い資本家が大衆から資源を吸い上げる仕組み

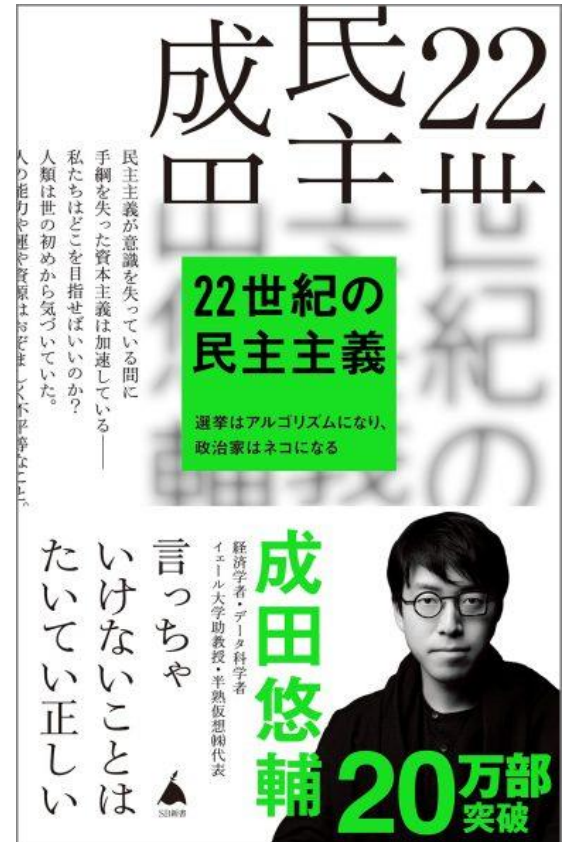
我々は最初から気づいていた。

人の能力や運や資源、といったものがおぞましく不平等なことを。

そして厄介なことに、革新的な局面においてこそ、

この不平等が最大限に活躍することを。

- ✓ 最高の能力を持ったエンジニアの生産性は、凡人の数倍どころか、10倍、100倍、時には1000倍を超える
- ✓ このことを具現化した資本主義が世界を覆った。これに異を唱えた（社会主義などの）試みはすべて失敗
- ✓ ただし、資本主義はしだいに暴走することも運命づけられている
- ✓ かつてアインシュタインが「人類最大の発明は複利だ」といったように
- ✓ 格差を拡大させるの仕組みが資本主義だから



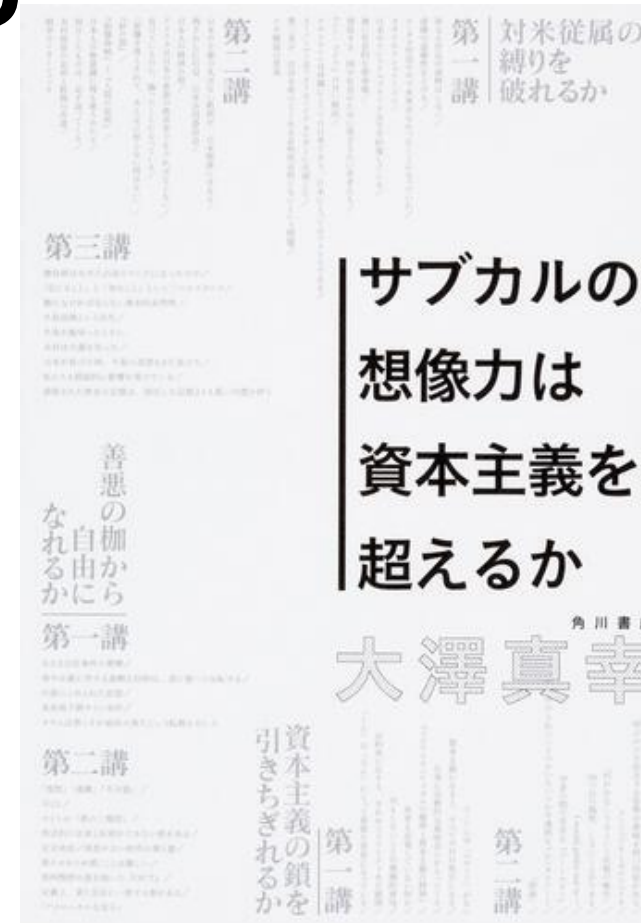
私たちの想像力は資本主義を超えるか

資本主義の終わりはディストピアを意味する

- ✓ 多くの知識人が、資本主義社会の破滅を警告している
- ✓ しかし、資本主義の次に来るもの、について示す人はほとんどいない
- ✓ エンターテインメント作品においてすら、人類最後の日にも我々は資本主義を続けているように描かれる
- ✓ 資本主義が終わる予感と、終わらないようにも感じる“二律背反”
- ✓ こうなってしまう理由は、これまで**人類は資本主義によってのみ発展を続けることができた**から
- ✓ 資本主義によって得ることができた良いもの（自由や健康、楽しい生活）の放棄（＝ディストピア）でしか、未来を想像できない



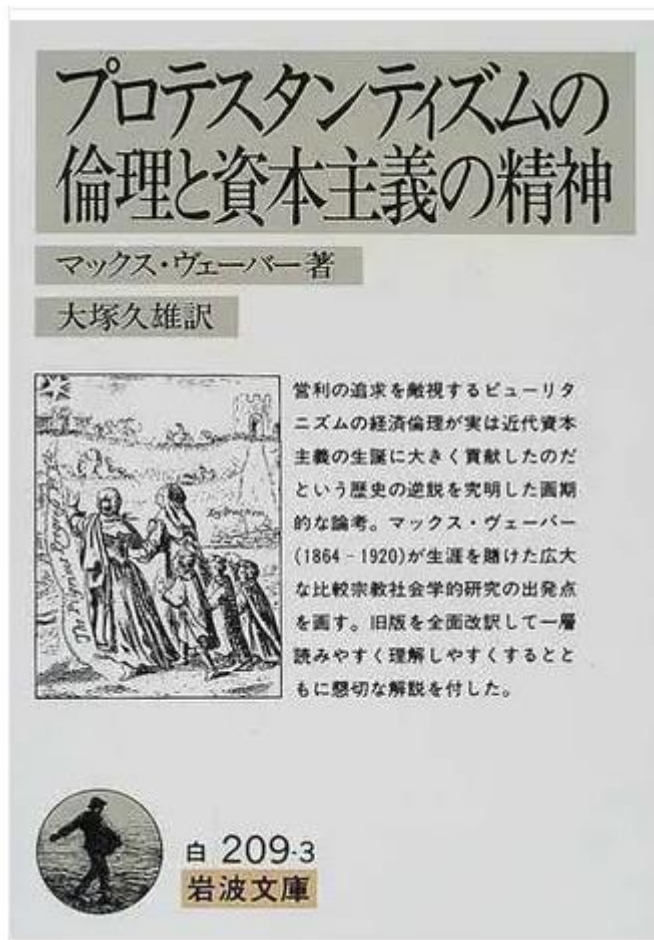
引用元：Hatena Blog 夢は洋画をかけ廻る
<https://dayslikemosaic.hateblo.jp/entry/2018/09/10/200000>



引用元：KADOKAWA
「サブカルの想像力は資本主義を超えるか」 大澤真幸

資本主義はなぜ西洋で生まれたのか

なぜ後進国だった西洋から資本主義が生まれ、世界を席巻しているのか



- ✓ 現在、我々はアメリカやEUなどの西洋国家が世界の先進国であるように感じている
- ✓ しかし、歴史的には長い間、西ヨーロッパは後進国で、ずっと長い間、中国の方が進んで豊かだった
- ✓ 中東も、昔は西洋よりよほど商業も盛んで、経済的にも豊だった
- ✓ ところがある時、資本主義がヨーロッパから起こった
- ✓ 気が付けば、資本主義が地球全体を席巻した
- ✓ マックス・ヴェーバーはこうなった理由は、プロテスタンティズムの「倫理」にあると説明した

プロテスタントの倫理の中に資本主義のベースがある

プロテスタントは成功し、カトリックは落ちこぼれる

- ✓ プロテスタントの“倫理”に資本主義のベースがある、というヴェーバーの説は、発表当時は非常に批判を受けた
- ✓ しかし、その批判を押し切り現在「根幹的な説得力を持っている」と評価されている
- ✓ 例えばEUで一番成功している国はドイツ
- ✓ スペインやイタリア、さらにギリシャにいたっては、あまり経済的にうまくいっていない
- ✓ 世界をリードする一番豊かな国はアメリカ、その前はイギリス、その前はオランダ
- ✓ **アメリカ、イギリス、オランダ、これらはすべてプロテスタント**
- ✓ 今一つうまくいかない、スペインやイタリアはカトリック
- ✓ 成功しているのかうまくいっていないのか微妙なのが、やはりカトリック系のフランス
- ✓ とにかく所得の高い国は、みんなプロテスタント系。ではなぜプロテスタントは経済的に成功するのか？



出典：19世紀英米一次資料に見る＜キリスト教会の改革＞
(<https://mirai.kinokuniya.co.jp/2020/09/15768/>)

なんとなくみんな感じていた疑問に、答えを出したのがヴェーバーの「ベルーフ」です

ベルーフ 神からの召命

神から与えられた「天職」

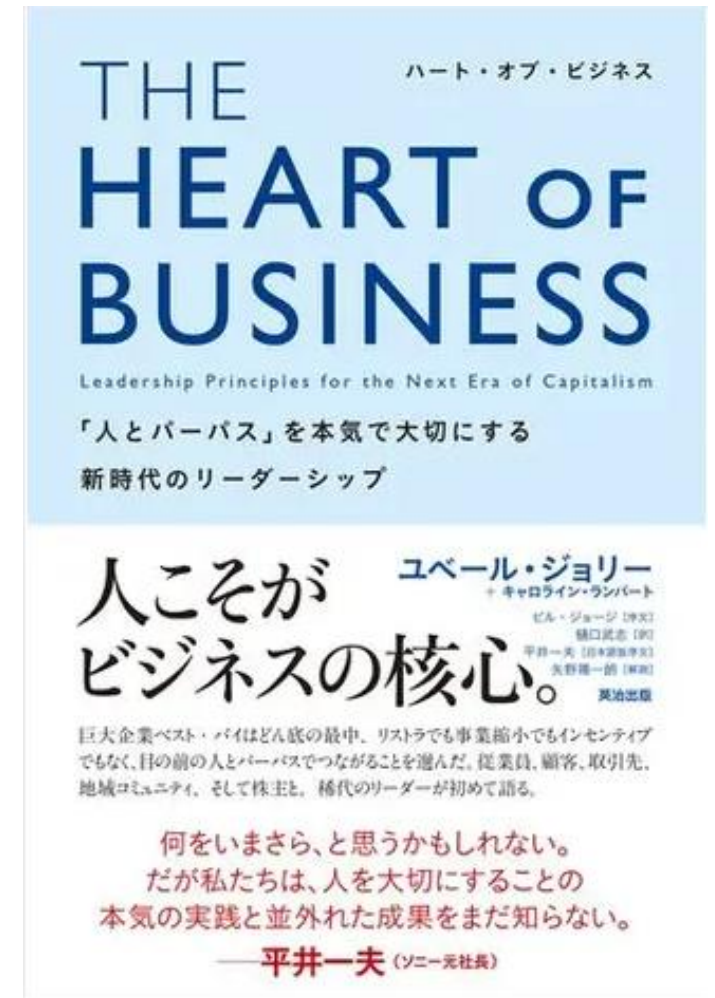
- ✓ ベルーフ (Beruf) 神からの呼びかけ、召命、天職
- ✓ 運命的に定められているもの
- ✓ 聖書でこのベルーフ＝「職業」としたことが非常に重要な意味をもった
- ✓ 仕事が、生きていく糧だけでなく、**神が呼び掛けた天職という感覚**
- ✓ 資本主義にとって、この感覚が非常に重要なものになった
- ✓ 資本主義の世界で成功するには、「**仕事にベルーフ感を持ってないと難しい**」
- ✓ 単に金持ちになってやろうでは、うまくいかない
- ✓ ベルーフとしてやっている内に「気がついたら金持ちになっていた」ということが、本当に多いということ



パーパス 人はなぜ働くのか

「ベールーフ」が「パーパス」となる

- ✓ 同じことをユベール・ジョリー氏（元ベスト・バイCEO）が著書「THE HEART OF BUSINESS 人とパーパス」で記している。
- ✓ ユベール氏はカトリック教徒だが「1985年にアメリカに移住してからプロテスタントの仕事への熱意について初めて知り、衝撃を受けた」と記している
- ✓ 「シリコンバレーの起業家、スタンフォードやバークレーの研究者や学者、私が出会ったすべての人たちは自分の職業に情熱を待っていた」
- ✓ 「困難は嘆くものでなく、解決すべき新しい問題として奮起し、チャンスと受け止めていた」
- ✓ 「仕事は耐えるものでなく、自分の知性や創造性を発揮する手段、幸福追求の手段」
- ✓ ユベール・ジョリーが語るパーパスは聖書のベールーフと同一
- ✓ パーパスはもっと個人の視点を強く語るべき
- ✓ **人こそがビジネスの核心**



資本主義はもう適切ではない

資本主義から才能主義（タレンティズム）へ

- ✓ 世界経済フォーラムの設立者のクラウス・シュワブ教授は「これから資本主義はどうか」という質問にこう答えている
- ✓ 「資本主義はもはや適切でない。成功を導くのはイノベーションを起こす才能だ」
- ✓ 「すでに、才能ある人材が、最も重要となる **才能主義（タレンティズム）の時代**に移行している」
- ✓ 「成功の鍵は、タレントに変わる。世界は”資本主義からタレンティズムへの転換期”を迎えている」
- ✓ 現在、グローバル企業のCEOが直面する最もチャレンジングな課題は**人的資本**である



引用元：DIAMOND online (https://office.tokyu-land.co.jp/workplace/WORKPLACE_feature-article_t02.html)

じゃあ、才能ってなに？